

光、環境分野で研究発表

静大で国際シンポジウム始まる

浜松

静岡大の超領域研究推進本部は8日、同大や海外などの研究者が、同大の重点研究分野の「光応用・イメージング」に関する研究成果を発表する「第6回国際シン

ポジウム」を、浜松市中区の大浜松キャンパスで始めた。9日まで。初日は同大工学部の小野篤史准教授(応用光学)らが発表した。

小野准教授のほか、香港理工大や中国浙江省の浙江大の研究者らも発表した。(浜松総局・松浦直希)



海外の研究者も登壇した静岡大超領域研究推進本部の第6回国際シンポジウム＝8日午後、浜松市中区の大浜松キャンパス

近赤外光は生体組織成分の判別や光通信の情報処理に役立つという。従来のカメラのフィルターでは、近赤外光を区別できなかった。

小野准教授は「金属凹凸薄膜の可視近赤外光フィルタリング特性」と題して、目に見えない近赤外光を捉えるカメラの開発を紹介した。

近赤外光は生体組織成分の判別や光通信の情報処理に役立つという。従来のカメラのフィルターでは、近赤外光を区別できなかった。

が、微細な凹凸構造の金属フィルムをフィルターに用いれば区別が可能で、現在試作に取り組んでいることなどを説明した。